

平成30年度石巻市子どもの未来づくり事業（第Ⅲ期）

「学習指導の改善を図る研修会」

第11回、第12回研修会（1月18日・21日）

- 場所 遊楽館、桃生公民館
- 講師 弘前医療福祉大学保健学部
教授 小玉 有子 先生
早稲田大学大学院教職研究科
教授 高橋 あつ子先生

☆研修内容

18日午前：ブリーフセラピーの実際

午後：困難事例対応（不登校）

21日午前：特別支援教育とMLA

午後：特別支援ニーズを背景とする
困難事例（ADHD）

〈受講者の声〉

- ◇ 話の中に何か所か、自分で同じようなことをしている部分があったが、このようにしっかりと理論として学べたことで、より効果的にやっていけると思った。
- ◇ ブリーフカウンセリングは場所や面接時間を必要としないので、子どもと日常的に関わっている教師が取り組むとよい。
- ◇ 教員の仕事の忙しさの中で生かしやすいブリーフカウンセリングの考え方を通し、生徒をよく見て認め、声を掛けるといったことの重要性を改めて感じさせられました。
- ◇ 発達障害、愛着障害をはじめ、様々な要因の有無はないか、また、逆にそうであると決めつけてしまっていないか等、様々な角度から見つめていくことの重要性を改めて感じた。
- ◇ 「教師は資源である。すべての教師にやれることがある。」という話が印象的だった。チーム学校として全職員が一つになることをもう一度確認し、実践していきたい。



- ◇ ADHDの生徒のケース会議をどう進めていくかについて、演習を通して具体的に理解することができた。コーディネーターとしてケース会議の進行には力量をつけねばと思った。
- ◇ 三次支援、二次支援、一次支援について理解することができた。課題分析への質問は難しかったが、実践を積み重ねながら分析の視点を養っていききたい。
- ◇ 午後の研修で一番自分に不足していると感じたのは「ほめるコツ」のところだった。25%のほめるコツは、児童にとっても有効な方法だと思った。
- ◇ 問題行動を見ると、つい注意ばかりしがちで、当然のことをほめるということが自分には難しいことなのだと痛感した。
- ◇ 特性を理解し、診断がついている、いないに関わらず、あらゆる支援方法を考慮し、その子にとって何が一番効果的かを考えていくことが大事であると学んだ。



☆研修からちょっと勉強…（詳細は、受講者へ）

- *ブリーフセラピー：「簡潔に」そして「効果的」をめざす。（「簡易」ではない）
明確で具体的なゴールを設定する。
子どもの状態を深刻化させないという予防的効果が期待される。
日常的な会話の中で行うことができる。